

## 【玉川小学校】小中学校の適正な規模等に関する意見交換会 議事録

### 1 開催日時

令和7年10月9日（木）午後6時30分～午後7時55分

### 2 開催場所

玉川小学校 体育館

### 3 参加者数 22名

#### 【事務局】

春日井市教育委員会		部長	森本 邦博
〃	学校教育課	主幹	梶田 傑
〃	〃	主幹	梶田 英男
〃	〃	課長補佐	深見 健司
〃	〃	主査	安田 和志
〃	〃	主事	杉山 太一

### 4 議題

石尾台中学校区における小中学校の適正規模及び適正配置に向けた検討について

### 5 会議資料

小中学校の適正規模及び適正配置に向けた検討について（玉川小学校）

## 1 開会

教育部長あいさつ

## 2 議題

- (1) 石尾台中学校区における小中学校の適正規模及び適正配置に向けた検討について

### 【事務局】

<本市の基本的な考え方とこれまでの取組について>

- ・児童生徒数は全国的な少子化の進展に伴い減少を続けており、本市においても、同様に減少していくと推定される。子どもたちにとってより良い教育環境を実現するために、学校の適正規模や適正配置について検討を進める必要がある。
- ・学校規模の区分について、本市では今年 2 月に「小学校・中学校の適正規模の基本的な考え方」を策定し、その中で、規模が小さい学校について、クラス替えができるかどうかの視点から学校規模の区分を設けた。
- ・クラス替えが可能であれば、児童生徒同士の間関係に配慮した学級編成ができることや、集団の中で社会性を身に付けたりできるなど、子どもたちにとって多くのメリットがあることから、本市では、小学校、中学校ともに 1 学年に 2 学級以上あることが必要であると考えている。
- ・どの学年もクラス替えができない「過小規模校」や一部の学年でクラス替えができない「小規模校」について、過小規模校を優先に、適正規模の確保に努めるように検討することとしており、「坂下」「藤山台」「高森台」「石尾台」「岩成台」の 5 つの中学校区にある学校を最優先に検討を進めている。
- ・これまでの取組として、令和 7 年 4 月から 5 月にかけて、対象校区の小中学校 17 校の P T A 役員の皆様への説明と意見交換を実施した。その後 5 月から 6 月にかけて児童生徒やその保護者の皆様に、6 月から 7 月にかけて、地域にお住まいの方を対象にアンケートを実施した。

<児童生徒数推計について>（資料 1 ページ）

- ・昭和 41 年度から令和 13 年度までの、玉川小学校の児童数の推移は、平成 23 年度の 408 人をピークに、令和 13 年度では 74.0%減少の 106 人と推計される。

- ・玉川小学校は、今年度、児童数 195 人、8 学級で、学校規模は、クラス替えができない学年がある「小規模」である。今後は、児童数、学級数ともに減少し、令和 9 年度から、全学年でクラス替えができない「過小規模」になると推定される。
- ・石尾台中学校は、今年度、生徒数 337 人、10 学級で、学校規模は、小規模だが全学年でクラス替えができる「やや小規模」である。今後は、生徒数、学級数ともに減少し、令和 18 年度から「小規模」になると推定されるが、令和 22 年度では「やや小規模」と推定される。
- ・石尾台小学校は、今年度、児童数 159 人、6 学級で、学校規模は「過小規模」である。今後は、児童数がさらに減少し、「過小規模」のまま推移すると推定される。
- ・押沢台小学校は、今年度、児童数 187 人、8 学級で、学校規模は「小規模」である。今後は、児童数、学級数ともに減少し、令和 13 年度から「過小規模」になると推定される。

#### <アンケート結果について> (資料 2～5 ページ)

- ・「1 学年に 2 学級以上となるように、学校の適正な規模や配置に市が取り組むことについて」の質問では、玉川小学校では、「賛成」の方の割合が保護者で 58.1%、地域の方で 56.8%となっている。  
「反対」の方は、保護者で 15.5%、地域の方で 32.4%である。反対の理由として、保護者の方は「登下校の時間や方法」を心配する方が多く、地域の方は「環境変化による子どもたちへの影響」を多くの方が心配している。玉川小学校に、石尾台小学校と押沢台小学校を加えた、石尾台中学校区の小学校「全体」の結果と比較すると、玉川小学校の地域の方は、「賛成」の割合が低く、「反対」の割合が高い結果であった。
- ・先ほどの質問に対して「賛成」と回答した方のうち、「ご自分の子どもが通う学校、またはお住まいの地域の学校が適正な規模や配置となるように取り組むことについて」では、玉川小学校、全体ともに「賛成」の割合が、保護者、地域の方のいずれも高い比率となっている。賛成の理由として、保護者の方は「集団活動における適応能力が磨かれるから」や「子どもの人間関係に良い影響を与えるから」と考える方が多く、地域の方は「子どもたちがより良い教育環境で学校生活を送れるようになるから」と多くの方が考えている。
- ・学級数については、保護者の方、児童生徒ともに 1 学年に複数学級が望ましいと考えている方が多く、クラス替えを契機に新しい人間関係を構築することができると考えている。  
小学生の保護者では、「複数学級を望ましいと考えている人」は 90.9%、小学生では、「複数学級が望ましいと考えている児童」は 60.4%となっている。その中で、

玉川小学校を個別に見ると、複数学級を望ましいと考えている保護者の方は 93.2%、児童では 75.2%となっている。保護者、児童ともに、中学校区全体の結果より、複数学級を望ましいと考えている比率が高くなっている。

- ・「学校生活において重要と思うこと」では、児童生徒は、「運動会などの行事でクラスに活気があること」や「クラスが変わって、新しい友達がたくさんできること」、また「みんなで相談しながらいっしょに勉強ができること」が大事だと考えている。中学生では「クラス替えができて、たくさんの友達をつくれること」を 51.7%の生徒が選んでいるが、同様の項目を選んだ小学生は、石尾台中学校区の小学生全体では 28.9%、玉川小学校では 37.2%と、中学生と比較し低い比率となっている。「クラスが変わって」をイメージしにくいからか、今回のアンケート対象の 17 校の中でも、過小規模校や小規模校では同様の傾向が見られた。

地域の方は、「子どもたち一人ひとりの状況に応じたきめ細かな教育」や「子どもたちの登下校」が重要と考えている。「子どもたちの通学の距離や方法」を選んだ方は、石尾台中学校区全体では 58.3%だが、玉川小学校では 70.3%となっており、地域の方の多くが「子どもたちの登下校」を重要と考えている。

- ・「魅力ある学校づくりを進めるため、学校の規模や配置を見直す場合に重要と思うこと」では、保護者の方は、「子どもの人間関係に広がりがあること」や「子ども一人ひとりの状況に応じたきめ細かな教育」が重要と考えている。

地域の方は、「子どもたちがより良い教育環境で学校生活が送れること」をととても多くの方が重要と考えている。「学校と地域との連携が図られること」を選んだ方は、石尾台中学校区全体では 40.2%だが、玉川小学校では 54.1%と高い比率となっている。

- ・「学校の適正規模等の取組において心配なこと」では、保護者の方は、登下校に関して心配と考えており、登下校については、安全性や時間が重要と考えている。

玉川小学校の保護者は、「登下校に関すること」を 71.6%の方が選んでおり、登下校について心配と考える方が多くなっている。

#### <本市の考え方について> (資料 6 ページ)

- ・「児童生徒数推計」から、石尾台中学校は、「小規模」又は「やや小規模」で推移すると推定される。また、令和 13 年度では、中学校区内の全ての小学校が、全学年で学級数が 1 学級の「過小規模」であると推定され、令和 22 年度では、児童数がさらに減少すると推計される。
- ・「アンケート結果」からは、学校が適正な規模や配置となるように取り組むことについて、賛成意見が多く、複数学級を希望する意見が多い。保護者は、子どもの人間関係に広がりがあること、児童生徒は、行事でクラスに活気があることやクラス

替えて新しい友達がたくさんできること、地域の方は、子どもたちがより良い教育環境で学校生活を送れることが重要と考えている。一方で、学校の規模や配置を見直す場合に、多くの方が登下校に関し心配している。

- ・「地域の特性」として、ニュータウン地区内で、石尾台中学校区は高森台中学校区と接しており、石尾台中学校は、直線距離で高森台中学校から約 1.1 km の距離に位置している。また、中学校区全体の北部から南部にかけて傾斜がある地形で、登下校の手段に配慮する必要がある。
- ・「児童生徒数推計」「アンケート結果」「地域の特性」を踏まえ、本市としては、石尾台中学校区の小中学校が適正な規模や配置となるように、具体的な検討を進めていきたいと考えている。

また、検討にあたっては、次のことに留意をする。

- 1 石尾台中学校については、「小規模」又は「やや小規模」で推移すると推定されることから、その推移を見守ることとする。
- 2 小学校については、各小学校の児童数推計から、児童数の減少が今後も続くこと推計されることから、隣接する中学校区と合わせた検討も視野に入れる必要がある。
- 3 登下校の安全性や時間を心配する方が多いことから、バスの利用など通学手段についても検討する。

### 3 意見交換

#### 【質問 1】

玉川小学校区では通学の問題が一番大きな問題になると思う。瀬戸市の「にじの丘学園」では、スクールバスを導入する話があったが、様々な問題があり中止となったと聞いた。春日井市も同じになるのではないのか。

また、交通事故など通学に付随する問題はいくつか挙げられるが、その点はどう考えているのか。

#### 【事務局】

玉川小学校区のアンケート結果では、登下校に関する心配が他の地区に比べて多くありました。この地区は傾斜がある地形となっていることから、通学手段には配慮する必要がある、バスの運行などの通学手段についても検討していかなければならないと考えています。瀬戸市について、ご質問のとおり、スクールバスの話がありましたが、現状では路線バスを活用していると聞いています。また、小牧市でも学校再編が進んでいるところですが、スクールバス導入の検討が進んでいるそうです。

登下校の手段についても様々な方法があると思うので、皆様と検討していきたいと考えています。

#### 【質問2】

玉川小学校の児童は、石尾台中学校ができた際に、石尾台中学校に編入されたと聞いた。それよりも以前は、高蔵寺中学校に通っていた経緯があるので、高蔵寺中学校区に編入するのはどうか。

また、南城中学校や中部中学校など規模の大きな学校に通う生徒や、藤山台中学校に近いのにもかかわらず高蔵寺中学校に通っている生徒について、校区の見直しをすることで課題を解消するという検討はあるのか。

#### 【事務局】

小中学校の適正な規模を考えるにあたっての手法としては、通学区域の変更と学校統合があげられますが、ニュータウン地区内は、全体的に子どもの数が減っており小規模校同士が隣り合っている状況であるため、通学区域の変更で対応することは難しいと考えています。

高蔵寺中学校区との校区の見直しについては、地域とのつながりのことを考えて、まずは中学校区内での検討を考えています。ただ検討を進めていく中で、地域の皆様の総意として、通学区域の変更という希望が出てくれば、そのことも含めて検討する必要があると考えています。

#### 【質問3】

玉川小学校は地域の防災拠点としても役立っている。現状では玉川小学校を残す方針で考えているのか。

#### 【事務局】

現段階では統合ありきでは考えていないので、具体的な予定などは決まっていません。ただ、もし仮に統合を進めたとしても、小学校が避難所として機能していることは十分承知していますので、避難される方が困ることがないように対応を検討します。

#### 【質問4】

複数学級にしたとしても、いじめは解決しないと思う。小規模校であれば、教員が早い段階でいじめを認知し対応してくれるのではないか。

#### 【事務局】

いじめの問題は簡単には解決できるものではなく、教員が気付いたときにはある程度進んでいることが多くあります。ただ単学級であると、同じクラス内でいじめ

た人といじめられた人が一緒に過ごすことを強いられてしまいますが、複数学級であれば、クラス替えによって環境を変えることができます。しかし、根本的な解決にはならないため、いじめの問題に関してはしっかりと対応する必要があると考えています。

#### 【質問5】

瀬戸市はスクールバスではなく路線バスの活用となってしまった。その場合、バス停に保護者が送っていき、教師が学校で対応する必要がでてくる。そのため働いている保護者や教師に負担がかかると思う。市の予算的にスクールバスが保証できなくなる可能性はあると思うが、どのように春日井市は進めるのか。

またアンケートについて、「適正規模」という文言がわかりにくいと思う。小規模、適正規模のメリットやデメリットを提示しないと、賛成に引っ張られてしまうと思う。

アンケートの結果では「子どもたち一人ひとりの状況に応じたきめ細かな教育」をしてほしいというのが、多くの方の願いだと思う。仮に石尾台中学校区の3校が統合したとすると、1クラスの人数が30人くらいになってしまい、現在よりも子どもたちと先生との交流がなくなると懸念している。適正規模にすることが果たして本当に子どもたちにとって良いことなのか。現在、国が1クラス35人と定員を定めているが、諸外国のように30人、25人とクラスの定員を減らす方向性はあるのか。

#### 【事務局】

今後、国や県が1クラス当たりの人数を減らしていくことについては、お答えできませんが、国や県の議論を注視していきます。

スクールバスについては、子どもたちに負担がかからないような形での運用方法を皆様と一緒に検討していきたいと考えています。

アンケート実施の際の小規模校と大規模校のメリットデメリットがわかりにくいというご指摘については、令和7年の2月に策定した「小学校・中学校の適正規模等の基本的な考え方」をホームページに掲載し、その中で示していたものの、皆様に伝わりづらかったと思います。今後は、改めてメリット、デメリットを示した上で、次の意見交換会を実施していきます。

最後に、仮に石尾台中学校区内の小学校3校が統合した場合でも、令和22年度では2年生では33人となり、1クラスにしかありません。そのため、市としては1クラスにしかならない状況を改善するため、中学校区を超えて隣接する学校区と合わせた検討も視野に入れる必要があると考えています。

**【質問6】**

適正配置に関して、統合により登下校に多く時間がかかると、若い世代は流入してこないと思う。その点に関して打開策はあるのか。

また、バスの民間委託は難しいと思うが、その点はどのように考えているのか。

**【事務局】**

仮に学校を統合した場合、通学距離だけで見れば負担感を強く感じる方もいると思いますが、まちづくり的な視点から、新たな魅力ある学校づくりをすることによって若い世代の流入のきっかけになればと思います。

バスの運営につきましては、市が直接運営するのか、民間に委託するのかの方法がありますが、他市の事例や皆様からの意見などを参考に検討していきたいと考えています。

**【質問7】**

ニュータウン地区では外国にルーツのある方が増加している。そのような子どもたちが日本の授業について行けず、置き去りになってしまっていると思う。そのような子どもへの対応は考えているのか。

**【事務局】**

現在も、外国籍の子どもたちに、日本語指導のための時間を設けています。今後そのような子どもたちが増えるとなれば指導者を増やすなどの対応が必要になると考えています。

**【質問8】**

今後のスケジュールはきまっているのか。

**【事務局】**

スケジュールについては、今の時点では決まっていません。今回の意見交換会は、先日皆様にご協力いただいたアンケートの結果を示し、皆様の率直な意見が聞きたいと考え開催しました。今後の進め方については、各小中学校での意見交換会の内容を踏まえ、次は中学校区全体で同じように2回目の意見交換会を開催したいと考えています。その後は、保護者や地域の代表者の方、学校関係者などを集めた協議会で具体的な検討を進めていきたいと考えています。

**【質問9】**

藤山台小学校が統合した際の良い点と課題点は何か。

### 【事務局】

藤山台小学校が平成 28 年度に 3 校統合した際の良かった点については、学校の設備など充実した設備が整った、児童の数が増えクラス替えができるようになった、多くの友達とコミュニケーションが取れるようになった、運動会をはじめとする行事が活発になった、地域や保護者が学校に関わりやすくなったといった意見があります。また、課題となった点については、統合により校区が広がって通学距離が長くなったという意見をいただいています。他に、藤山台小学校は段階的に統合しており、最初に藤山台小学校と藤山台東小学校を統合した後に西藤山台小学校が統合したため、統合は一度で済んでほしかったといった声も聞かれました。

藤山台小学校は、当時の児童数の推計から統合を行ったものの、現状ではより早い段階で児童数が減少しているため、再度適正規模の検討の対象となっています。

### 【質問 10】

石尾台中学校区を超えて、隣接する中学校区とも検討が必要とのことだが、高森台中学校区との距離を示してあるということは、その想定なのか。ニュータウン地区が今後さらに大きな範囲で統合される方向性もあるのか。

### 【事務局】

石尾台中学校区内の小学校 3 校だけでは適正規模がかなわない可能性があるもので、将来的には他の中学校区との統合も視野に入れて検討していかなければいけないと考えています。実際にどうするかは、今後皆様と協議していきたいと考えています。現時点で、高森台中学校区と一緒にすることを示しているわけではありません。

### 【質問 11】

岐阜県の山口市では小規模の学校を統廃合するのではなく、維持しているという話を聞いた。我々の母校がなくなるのは寂しい。統廃合ありきだという印象を受けた。できるだけ既存の学校を維持してほしい。

### 【事務局】

統合ありきではないのかという意見に関しては、私たちはフラットの状態で考えていますが、個人の受け止め方によってそれぞれ思いが変わってくると思うので、貴重なご意見として頂戴いたします。

山口市の小規模校につきまして、ニュータウン地区とは異なり、学校間の距離が遠いことなどから、統合するのではなく小規模校として維持していると聞いています。このような他市の情報も参考にしながら、検討していきたいと思っております。

**【質問 12】**

今回のアンケートでは回答数が少ないため、今後、意見交換を踏まえて、再度アンケート調査など広く意見を募るような展開の仕方は考えているのか。

またリ・ニュータウン計画について、計画による児童数の増加見込みを考慮して、適正規模が必要なのかどうかを判断しないのか。

**【事務局】**

今後のアンケートに実施については未定ですが、意見交換会や協議会を開きつつ、広く皆様からの意見を募ることができる形を取りたいと考えています。

リ・ニュータウン計画について、担当部署が目標数値を設定して、流入人口を増やすために様々な施策に取り組んでいますが、現在は達成できていないというところであり、今の状況を踏まえて、計画の見直しを図りながら検討を進めています。教育委員会としては、適正規模を考えるにあたって、仮に計画通りに進んで人口が増えた後の児童数推計ではなく、現状を見て検討を進める必要があると考えています。

**【質問 13】**

各3校の築年数を知りたい。

**【事務局】**

それぞれの校舎の建築年は、玉川小学校は昭和53年、石尾台小学校は昭和54年、押沢台小は昭和57年です。

築年数は、玉川小学校が築47年、石尾台小学校が築46年、押沢台小学校が築43年となります。

**【質問 14】**

仮に統廃合されたときに、先生はそのまま統合先に勤めるのか。

**【事務局】**

学校に配置される教員数は、クラス数によって決まっています。そのため、統合後のクラス数に応じた教員の配置となりますので、必ずしも統合後の学校に勤めることができるとは限りません。藤山台小学校が統合した際は、新しい学校を立ち上げるということから、統合前の学校に勤務していた先生が多く異動となりました。

**【質問 15】**

アンケートの結果について、回答者数や母数を教えてほしい。

**【事務局】**

本日配布した資料の2ページに回答者数は示させていただきました。母数については、未就学児の保護者と地域の方の数は把握できておりません。

**【質問 16】**

小中一貫校など新しい学校づくりに関する計画はあるのか。魅力的な学校ができれば、若い世代が流入するきっかけになると思う。

**【事務局】**

現時点では、具体的な計画は決まっていますが、小中一貫校につきましても並行して調査しております。魅力ある学校をつくるということの考え方は皆様と一緒に進めていきたいと思います。

**4 今後の進め方について**

**【事務局】**

- ・石尾台中学校区の各小中学校で開催した意見交換会でいただいたご意見などを取りまとめた上で、次は石尾台中学校区全体の単位で、年内に2回目の意見交換会を開催したいと考えている。
- ・その後、石尾台中学校区で保護者や地域の代表の方、また、学校関係者などで構成する、学校づくりを検討するための組織を立ち上げ、学校の適正規模や適正配置について、具体的な検討を行っていきたいと考えている。
- ・次回の意見交換会の日程は、市ホームページでお知らせするほか、保護者の方へはHome&Schoolで、地域の皆様へは回覧板でお知らせする。

**5 閉会**

午後7時55分 閉会